
達人リコメンドの四国(石鎚編)

瓶ヶ森(愛媛県西条市)

四国の道と言えば遍路道？大洲のおはなはん通り？小豆島のエンジェルロードで手をつなぎますか？それとも、ほろ酔い気分で歩くライオン通り？いえいえ、壮大な風景、石鎚連峰の南側に位置する「瓶ヶ森林道」が最高です。



今年のゴールデンウィークは、久万高原町の国民宿舎の石鎚・面河・古岩屋荘を連泊してみました。観光は、瓶ヶ森(標高1896m)ハイキングに土小屋サイドからの石鎚山・天狗岳(標高1982m)登山と面河溪谷散策、久万高原遍路歩き、新居浜市東平(とうなる)地区の東洋のマチュピチュと命名された別子銅山跡地などなど。



今年は天候に恵まれ、念願の西日本最高峰の天狗岳の山頂に立ち、新緑の石鎚山系を一望することもできました。ただ、この場所に行き着くには、先が見えない絶壁の鎖を降りて、合掌造りの尖がった岩を移動しなければなりません。一歩間違えれば命を落とすような岩場で、下を見れば気絶しそうになる絶壁。

「こんな安全帯なしで進んだらいかんやろ！」

なんて土木の仕事に携わる一人として言いたくなりますが、安全帯のフックを掛ける親綱も張っていませんので、諦めて進むしかありません。



また、足場になる部分は高い位置ゆえ、尖がった岩の斜面を「お母ちゃん堪忍！」などと呟きながら、ほふく前進。ちびりそうな状態で1982mに到達。やっぱ、決め台詞は「今日は、これくらいにしといたろ！」で敬意を表し、次に石鎚山に登っても1974mの弥山で満足したいと思っています。

ともかく、昨年のロープウェイコースに比べて景色も楽しめたとし、弥山まで約2時間で登れたので、こちらの土小屋コースを達人としてお勧めしたいと思っています。



さて、今回最大のヒットは、宝塚トンネル渋滞回避のために早朝4時出発での四国入り。

8時に豊浜SAに到着して情報収集。予定外の「瓶ヶ森林道」経由での土小屋入りを決意しました。伊予西条で降りて加茂川を渡って194号に。新しい寒風山トンネルを抜けてすぐの道を左にヘアピンターン。昭和の昔、怖い思いをして登った旧194号のくねくね曲がる山道を進んで旧の寒風山トンネル入り口の手前、寒風山茶屋のある交差点を左折すれば瓶ヶ森林道です。



一応この茶屋で昼食を手配。豆がしっかり詰まった赤飯と柚子の香りが食欲を誘ういなり寿司を購入して、瓶ヶ森ハイキングに備えます。

林道のスタート地点は標高1200m、高知県の町で、これより愛媛県との県境に沿って石鎚連峰の南側斜面を進みます。右は1700m級の熊笹に覆われた緑の山。左は斜面で、なだらかな部分から絶壁もあって遥か下方に広がる森林地帯が見渡せます。太平洋側から空を流れてくる雲は、この斜面に阻まれて雨として水分を大地に落とします。瀬戸内が温暖な気候であるのは、四国山脈のお陰で、ここで集められた水は、やがては吉野川や四万十川となって大地に養分を与え、人々の生活を支えます。

林道は、寒風山から、伊予富士・東黒森・自念子ノ頭・西黒森・瓶ヶ森、子持ち権現・東黒森・伊吹と続き、最後は石鎚登山口でもある土小屋で、石鎚スカイラインにつながります。絶景ポイントを紹介する道路マップを見かけますが、この道に関して言えば最初から最後まで絶景ポイントで、四国カルストと並んで最も雄大な眺望を楽しめる道路だと絶賛します。



また、林道沿いに数ある登山口ですが、今回セレクトしたのは、瓶ヶ森。

なだらかな斜面を柔らかな緑で覆う熊笹、白骨木が点在し濃い緑で自己主張するウラジロモミが目優しい。山頂に立てば、西は石鎚山、北は瀬戸内海、東は伊予富士などの石鎚山系、南は氷見二千石原と呼ばれる稜線が広がり、遥か彼方に土佐湾が見える場合もあるそうです。

晴天に感謝、そして、こんな素晴らしい眺望を残してくれた四国に、地球に、神様に感謝ですね。参考まで、所要時間は、登山口駐車場から1896mの山頂(女山)で弁当を広げ、たくさん写真を撮って、おいしい空気をいっぱい吸って、次に高い男山経由で駐車場に戻って約2時間です。



さてさて、絶景の連続・瓶ヶ森林道、眺望の美しい瓶ヶ森山頂までの周回ハイキングコース、天狗岳を眺めながら登る土小屋からの石鎚登山道。

これらを合わせて達人リコメンドの道と勝手に認定したいと思います。

弥山から天狗岳の道は別として一度歩いてみれば神の領域に達するかも・・・一度お試しあれ！！



平成22年5月7日記（旅は平成22年5月2日～5日）

Top
[トップ](#)
[↑](#)

Back
[戻る](#)



[達人リコメンドの四国\(ミッフィー編\)](#)